

超高齢化社会のまちづくり

団塊の世代が全て75歳以上になる2025年、わが国の高齢化率は30%になります。しかし鎌倉市の高齢化率はすでに30%を超え、超高齢化社会を迎えようとしています。

どんな仕組みのまちづくりをすれば良いのでしょうか。その答えが「地域包括ケアシステム」のあるまちづくりです。完治しない病気や障がい、高齢になっての一人暮らし、認知症などのために自立した生活が困難になった人でも、住み慣れた地域で、自分らしく、最期まで暮らし続けることができるよう、地域全体で支え合う仕組みのことです。

◎自助・互助・共助・公助

自分の生活や健康を自らの力で維持すること、どう生きたいかという意志(自助)がベースです。その気持ちを友人・知人、ご近所、同年齢層の助け合い(互助)で支えます。さらに訪問医療、訪問看護、介護、生活支援など(共助)のシステムが連動します。自助・互助・共助では解決できない課題をサポートするのが公助です。

◎鎌倉市に求める早急な取り組み

まず求められるのは在宅医療介護サービスの提供体制。現在在宅医療を行う医師は40人程度、2025年には患者数が1.4倍に増加することが見込まれており、当然医師数も同程度に増やす必要があります。

同時に自宅を訪問できる歯科医師、薬剤師、訪問看護師、介護士、日常生活を支援するスタッフなどと、その連携システムの充実を図らなければなりません。

私の6月議会における一般質問は、地域包括ケアに集中して行いました。

ブログ「いやさか通信」から

平井隆一さん出版祝賀会



長谷子ども会館の嘱託員だった平井さん、歴史学者であり、工学博士でもあり、「頼朝が幾何で造った都市・鎌倉」を出版。興味深い内容です(6/16)。

浄明寺町内会の地曳網



青年部主宰で、イワシや小魚の中にスズキやアオリイカも入り大漁。女子会は4時間も天ぶらを揚げ続けました。アッという間に皆のお腹に(6/1)。

寄居町の処理工場を視察



プラ、生ゴミ、汚泥など多くの品目をリサイクルできる「廃棄物 Eta ノール化パイロットプラント」を市議会有志15名で視察。ごみ処理の一つの方法です(5/21)。

今年も道端のチリアヤメ



谷戸に朝日が当たると「今日咲きましょう！」とばかりに一斉に咲く5cmほどの高さの一日花。家の前のコンクリートの割れ目のショウタイム(5/20)。

議会報告会&意見聴取会



毎年2・3月議会での予算審議についての報告を行い、今回の意見聴取会は「あなたにとっての共生社会とは？」をテーマに市民の皆様との対話(5/18・19)。

伊豆の国市子ども創作能



今年も「鎌倉まつり」に参加して鎌倉宮の拝殿で上演。20年の歴史を持つだけに堂々の演技です。鎌倉でも「鎌倉子ども能」の実施が始まりました(4/20)。

前川あやこのホームページからブログ「いやさか通信」をご覧ください。
<http://www.maekawa-ayako.net>

【発行】前川あやこ 【住所】〒248-0003 鎌倉市浄明寺2-10-8
【E-mail】info@maekawa-ayako.net

共育のまち、鎌倉をつくろう



今年で43回目を迎えた「国指定史跡 和賀江島 清掃・保全活動」。このような活動が半世紀近くの歴史を持つことにもまず感慨を覚えます。一昨年に比べて、今年は砂に潜り込んでいたり、岩にへばりつくビニール袋が多かった印象。潮溜まりの小さなプラスチック片やフワフワ浮く切れ端を一つひとつ拾い上げました。「プラごみゼロ宣言」を思い出しながら(2019,6,2)。



前川あやこ

無所属 鎌倉市議会議員

2005年初当選 4期目 鎌倉みらい
議会運営委員会副委員長
教育・こどもみらい常任委員会副委員長
政策法務研究会メンバー

レポート
No.61
2019,07発行

2019年6月議会からのご報告

- 1 超高齢化社会のまちづくり
- 2 加齢の衰え予防、フレイルチェック
- 3 終活事業、最後まで安心な人生を
- 4 老人福祉センターのあり方
- 5 高齢者施設の送迎車による外出支援
- 6 地域包括ケアを実現する仕組み

討議資料

加齢の衰え予防、フレイルチェック

健康と要介護の間にある時期がフレイル。その時期に自分の体を確認して、要介護に進まないようにするのがフレイルチェックです。

鎌倉市では「みらいふる鎌倉」の会員の中に、チェックを実施できる人を養成して、この活動を広めていこうとしています。この秋には、みらいふる鎌倉を中心に開かれている各地区のサロン等に専門家(歯科衛生士や理学療法士等)を派遣しチェックが出来る人を増やしていく予定。

地域包括ケアシステムで考えれば、これは互助に当たるもの。同世代の交流の中で、より長く健康な期間を伸ばしていくことが出来ます。

終活事業、最後まで安心な人生を

鎌倉市ではエンディングノートを配布しています。高齢者自身が人生を振り返り、残りの人生を自分らしく過ごすために、終活課題を整理し、いつまでも安心して暮らすことを目指すノート。このノートの活用方法の説明会を10月以降に計画しています。

同時にエンディングプランをサポートする事業を進めています。単身のご高齢者が増える中、緩和ケアや延命治療の意志、葬儀、納骨、遺品整理等の死後事務について整理した後、ご本人と葬祭担当者が生前に委託契約を結ぶものです。

また今年8月から実施する終活情報登録事業は、一人暮らしのご高齢者の緊急連絡先や、終活情報を緊急時にご本人に代わって市が警察、消防、医療機関等からの問い合わせに答えられる情報を登録しておくシステムです。



老人福祉センターのあり方

これまで高齢者の憩いの場として、長年その役割を果たしてきたのが、市内5つの老人福祉センター。これら施設を高齢者中心に考えつつも、多世代で集い、交流できる場にする事で、異なる世代同士が知り合い、共に生きる地域づくりに繋がっていくものとなります。

センターの利用者数は、平日に比べ、土・日・祝に下がる傾向がありますが、土、日に講座やサークル活動を行う所、あるいは多世代交流事業を実施しているセンターでは利用者が多いようです。勤務体制を見直し、利用者数を上げる工夫が必要です。

地域包括ケアシステムの中では、高齢者を中心に、多世代が集う場が重要です。老人福祉センターの在り方を見直し、多世代での利用を含めて、まちづくりの考え方のもと、そのあり方を変えていく時期にきています。

高齢者施設の送迎車による外出支援

高齢者による交通事故が多発し、免許の自主返納をされる方も多い中、活動的な生活をしていただくためにも、その後の交通手段が必要です。10年程前、ミニバスの運行実験を行いました。あまり成果が上がりませんでした。谷戸が深い鎌倉では、奥まで入れる交通手段が求められます。

すでに一部の高齢者施設では、朝夕の送迎者車両を利用し、日中要望に応じて買物先に寄るなどの運行サービスを行っています。市内では送迎車を利用する高齢者施設は11ヵ所ありますが、ガソリン代や運転手の人件費の補助など、市の支援があればもっと増やすことが可能だと思われます。

10年前より高齢者率もぐんと上がり、足が不自由になったり、障がいを持つ方も増加しているはず。外

出や買物の足が確保されれば、ご高齢者の暮らしもさらに活発になります。

地域包括ケアを実現する仕組み

鎌倉市が迎える超高齢社会では、ご高齢の方々に、できる限り長く現役でいて頂くこと、様々な担い手となって頂かなければなりません。それが可能なまちづくりを進める必要があります。

すでに鎌倉市ではその具体例もあります。今泉台の分譲地で進められている長寿社会のまちづくりの取り組みは、地域包括ケアシステムを実現する地域づくりそのものです。特に分譲地で高齢化が進んでいる現状は明らか、この今泉台の先進例を他の分譲地へはもちろん、市内各地で実践されるようにする全庁的な仕組みが必要です。

◆若々しく発展する鎌倉に繋がる

地域包括ケアシステムの実現には、ここに書いてきた福祉の分野だけでなく、交通機関や公園・道路のインフラ、防災、ゴミ対策、就労や学習機会の提供など、市役所各課が連携する全庁的な仕組みづくりが必要で、早急に全体を調整する組織をつくることを要望します。

地域包括ケアシステムの構築は、ご高齢者だけでなく、障がいを持つ方、妊娠している人、子どもたち、経済的弱者までもが安心して暮らせるまちづくりに繋がります。多くの方が「鎌倉に暮らしてよかった」と思えば、若い人達も集まって来るでしょう。

鎌倉は超高齢社会を必ず乗り切っていけると信じていますが、2025年はもう目の前に迫っています。全市の力を結集するには、市長を始め、行政のリーダーシップが求められています。支え合う社会、支え合うまちづくりを目指しましょう。